

### 第3回「多様なニーズに応える道路空間」のあり方に関する検討会 議事録速報

○日 時 令和3年1月22日（金） 10:00～12:00

○会 場 2号館 第2会議室 B（TV 会議システム）

～事務局より資料を説明し、意見交換を行った。

#### ■議事Ⅰ 検討会の今後の進め方（資料1）

- ・コロナ占有やほこみちは非常に画期的な取り組みであり、官民で考える雰囲気づくりができています。また、道路管理者と警察の融合の賜物である。
- ・モビリティや歩車共存がガイドラインに入ったことも非常にいいことである。
- ・p2 ガイドライン5章の個別施策には、具体的な事例やアイデアを書き込んでほしい。
- ・p2 個別の機能についての2ポツ目で重複させないのは理解できるが、現実的には色々な機能や施策を組み合わせるべきであると記載すべき。（詳細な説明までは不要）

#### ■議事Ⅱ 多様なニーズに応える道路空間利活用の評価指標、評価方法、マネジメント（資料2）

- ・p5 評価の指標やデータの取得は地域や道路管理者、警察からのコンセンサスをとるには必須であるが、現場では苦勞しているため、データの取得技術や活用方法を全国で共有できるのはよい。
- ・人流や交通のデータ取得方法は確立されているが、商業施設では精度が高いが、オープンエアでは精度が低いという問題や、御堂筋と難波など地域同士でのデータの交換も難しい場合がある。
- ・賑わいに関する売上データは海外では行政が一括して扱っているが、日本では目的外使用ができない状況であるため、ハードルは高いが、人流や交通以外の売上データなども自由に使用できるとよい。
- ・p8 事例の紹介で重要なのは地域の運営主体の育成であり、ワークショップだけでは育成は難しく、社会実験を数年間繰り返すプロセスが必要である。
- ・p9 エリマネ的な視点とあるが、コロナ占有のように一括占有が前提となると、それが可能な組織が限られている。行政が窓口になって個別に貸し出す事例もあったようだ。海外でも事例はあるが、軽い占有や運営みたいな工夫があってもよいのではないか。エリマネがちがちにならない使い方もあっていい。
- ・指標に紐づくエリア設定の考え方が重要である。例えば、御堂筋ではほこみち区間とほこみち以外の空間と、さらに広い空間で捉えないと評価が難しい。
- ・道路及び道路周辺空間に加えて、まちにかかわる指標を加えていただいたのは大きなポイントである。
- ・時間軸でいえば、1日の中や、平日・休日、さらに一年間で大きな変化があり、時間概念をどのように捉えていくかが重要である。

- ・例えば、道路や河川などの横の情報交換も重要である。
- ・p2 売上は評価指標としてよく出てくるが、出店の売上は反映されていない場合がある。実態をつかむには必要に応じて来客者に使用した金額をヒアリングするなど、工夫が必要である。
- ・p3 モバイル空間統計は、オフィスで働いている人や車で通過している人も含まれているため、使用する際には性格をよく理解する必要がある。
- ・道路で滞留している人がどこから来たのか、どのような交通手段を使用したのかを考えることも重要であり、将来的には ETC2.0 のようなものを人間につけて経路を追えると理想的である。
- ・p2 歩行者に関する量は、多くても良いが混んでいてはダメである。密度に関しては、快適性に関わるため、もう少し掘り下げてもいい。
- ・歩行者を一律で見るのではなく、通勤なのか賑わいなのかなど、歩行者の質にも着目する。
- ・評価全般で挙げられた指標をどのように使用して評価するのが難しく、適切に評価指標を選ぶのは難易度が高い。例えば、ケースごとに選定する評価指標を示すことや、必要に応じて評価する場所に専門家を入れても良い。
- ・合意形成の際に参加者にどのような指標で評価してほしいかを聞くことや、関わっている人を意識して指標を選定することも重要である。
- ・モバイル統計みたいな手法もあれば、費用のかからないローテクな方法も示してもよい。
- ・評価手法に対する費用の支援がないと進まない。
- ・アウトプットを示す指標とアプトプットがもたらすアウトカムを示す指標があるが、バランスよく選定する必要がある。
- ・継続的に指標を取得することが重要であり、指標の取りやすさや予算規模などによって、松・竹・梅を示してはどうか。
- ・マネジメントの事例は施策によって内容が大きく異なるため、ガイドライン 4 章はマネジメントの総論を紹介し、具体的なマネジメントは 5 章の中で施策ごとに紹介すると分かりやすいのではないか。

### ■ 議事Ⅲ 多様なニーズに応えるための有用な個別施策（資料 3）

- ・占有期間を数年単位で見た時のポイントを整理する。例えば、評価指標をどのように役立て行くか。更新時にどういう形で事業者を継続してもらうかなどの考え方もガイドラインに含めてはどうか。
- ・新たなモビリティの導入などを踏まえると民地活用の重要性が増している。セットバックなど民地の活用事例も入れてはどうか。（江戸川区でのポケットパーク整備事例）
- ・歩車共存道路でのデバイスの設置については、道路構造令の 4 種 4 級、3 種 5 級に限られているが、現実には該当しない道路にもデバイスが設置されている事例がある。
- ・デバイスには交通量を落とすために設置する場合や、安全な道路横断を確保するためスムーズ横断歩道を幅員の大きな道路に設置するなど、道路構造令の例外事例を掲載しても

よい。

- ・コロナ占用特例の仕組みは非常に良い取り組みであり、特例でない形で継続できないか。
- ・旭川の買物公園のように、一定の延長が構造としてあったほうがよい。毎年、食べマルシェという質の高いイベントを実施している。路線にはベンチや彫刻などが設置され、パターン化されており、空間的なリズムを作るとよい。
- ・サンフランシスコは気候がとても良く外に出たくなるが、日本の気候を考えるとどうか。日本の文化は靴を脱いでゆったりするものであり、和風の道路空間の使い方が示せないか。(ガイドラインに入るかはわからないが、一つの視点として提示。)
- ・ほこみちには仮設型やハード整備を伴うタイプ、道路断面を刷新するようなタイプ、大々的にリニューアルするタイプなど、仮設型から常設型のようにバリエーションに分けて議論することが重要である。
- ・指標や効果の検証というのは、受益者負担に関わる部分であり、イニシャルコストや管理運営コストを地域に求めていく際に活用するものであり、一方で行政の立場からすると投資をすることの妥当性の検証につながる。
- ・ほこみちを始めるには準備することがたくさんある。例えば、路上施設を設置するため、景観のルールを決める必要がある。インフラ（電気や水道など）やバックヤードとして民地空間の活用など準備への支援も必要である。
- ・新しいモビリティやAIカメラなどを導入する際の装置には費用がかかるため、ハード整備の導入支援にも理屈づけができないか。
- ・国交省にはお金をかけて道路空間をつくることも意義付けをしてほしい。通常の道路整備よりもランクを上げるストーリーが必要である。
- ・p4 最初の占用を説明するフローはあるが、重要なのは更新時にどのように改善し、どのような体制で評価していくかである。大阪の河川の取組みでは、外部評価委員会を組織して3年に1回、評価して改善を指摘している。道路でも同じような仕組みができないか。
- ・p6 既成市街地型でエリマネを成立させるには開発型とは違いお金がない。どのように収益を得ていくかが重要であるが、広告・看板のルールがあいまいである。広告や看板の具体的なルールとして、警察との条件付きで一定の要件を認めるなどのアイデアを盛り込んでもよい。
- ・p19 歩車共存道路がガイドラインに入ったことはいいことである。事例を通して、安全性の確保やデザイン、道路構造のあり方、地元の運営体制などを紹介してはどうか。
- ・エリア全体をウォークブルにするには、荷捌き車両と人との共存が重要であり、新たに項目をおこしてもよい。時間と空間で分ける方法が考えられるが、その他にどのような交通規制、停車スペースの確保の仕方、安全性を担保するようなデータの取り方、海外の共存方法やアイデアなどを整理するとよい。
- ・p12 ほこみちとパークレットの違いは、道路占用物件か道路附属物かとしているが、パークレットでも歩道上を活用したものもあり、ほこみちとの違いが分かりづらい。ガイドラインでは、違うものとして扱うと読者が混乱しないか気になる。ガイドラインではケース

によって使い分けが分かりやすいように整理できないか。

- ・ パーソナルモビリティなどに関しては、警察庁において議論しており、その結果を受けて道路側で議論することになる。
- ・ p19 歩車共存道路は以前から単語はあり、平成 28 年の技術基準を踏まえて、本格的に導入の機運が高まっているなかでの新たな話と理解している。例えば、神門通りは条例で占用を認めており、最近の新しい取り組みとしてガイドラインで紹介してはどうか。
- ・ p22 鴻巣市の事例は単断面道路に植栽を設置しているが、全国的には道路法上みだりにものを置いていると解釈する人もいる。あえてガイドラインに載せることで良い意味での影響もあるのではないか。
- ・ 寺内委員から歩車共存道路と種級区分の話があったが、交通安全施設として設置する場合には種級区分を妨げないと理解している。

#### ■議事Ⅳ ケーススタディ地区の公募について（資料４）

- ・ 特になし

以上